御所市新しい学校づくり タウンミーティング

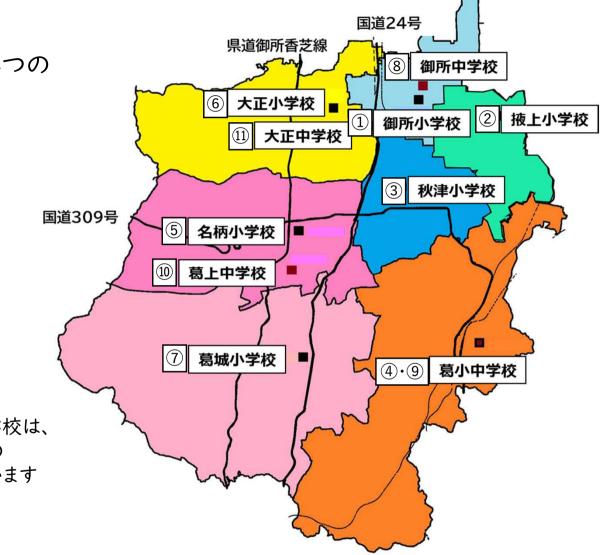


● 御所市の学校

御所市には現在市内に、7つの小学校、4つの中学校があります。

(うち|小・|中が小中一貫校で運用)

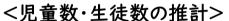
- 小学校
 - ① 御所小学校
 - ② 掖上小学校
 - ③ 秋津小学校
 - ④ 葛小学校
 - ⑤ 名柄小学校
 - ⑥ 大正小学校
 - ⑦ 葛城小学校
- 中学校·小中学校
 - ⑧ 御所中学校
 - ⑨ 葛中学校
 - ⑩ 葛上中学校
 - ① 大正中学校

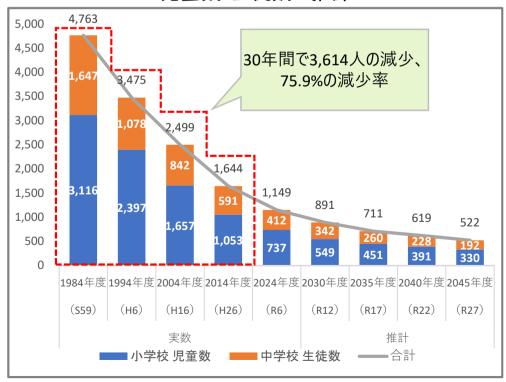


葛小学校と葛中学校は、 小中一貫校の 形態で運用しています

御所市の現状

- 人口減少・少子化に伴い児童数・生徒数が減少しています。
- 減少傾向は続き、2030年度(令和12年度)時点で、小学校は549人、中学校は342人 となる推計となっています。
- 校舎も全体の半数を超える校舎が築40年以上経過しており老朽化が進んでいます。





<児童数・生徒数の減少率>(2014年度から2030年度)

	2014年度 (H26年度)	2024年度 (R6年度)	2030年度 (R12年度)	減少率 (2014年度 ⇒2030年度)
御所小学校	323	260	208	∆35.6%
掖上小学校	160	95	65	△59.4%
秋津小学校	113	63	34	△69.9%
葛小学校	67	37	20	△70.2%
名柄小学校	59	39	31	△47.5%
大正小学校	253	159	162	∆36.0%
葛城小学校	78	57	29	△62.8%
御所中学校	319	201	209	∆34.5%
葛中学校	39	25	21	∆46.2%
葛上中学校	89	59	42	△52.8%
大正中学校	144	81	70	△51.4%
合 計	1644	1076	891	△45.8%

● 学校再編の目的

多様な意見や価値観 に触れる機会が増える 異学年との関わりで 思いやりや社会性が育つ

先生のチーム力で 手厚いサポート

多様な友達と出会える クラス替え可能

一人一人に寄り添う サポートの充実 子どもたちに "よりよい教育環境"を 教科担任制や専門性 のある指導

> 新しい校舎 新しい学びの空間



児童生徒数の減少による課題

- ・クラス替えが全部または一部の学年でできない
- ・多様な学習形態や指導形態がとりにくい
- ・人間関係が固定化してしまう
- ・子ども同士の競争心が生まれず、切磋琢磨が 難しい
- ・部活動の種類の制限と、定員不足により存続が 困難である



小規模校化による課題

- ・単学級や一人ですべての教科を担当している教 員が多く、同学年や同教科の教員と相談すること が難しい
- ・中学校で全教科の教科担当が配置できない
- ・免許外指導の教科が生まれる可能性がある

● 検討の経緯

年月	本市の動き
2013年(平成25年)2月~ 2014年(平成26年)1月	御所市学校規模適正化審議会の開催⇒御所市立学校の適正規模及び適正配置について(答申)
2014年(平成26年)10月~ 2015年(平成27年)10月	御所市学校規模適正化推進会議の開催⇒御所市学校規模適正化推進会議の提言書
2015年(平成27年)10月~ 2016年(平成28年)3月	 学校規模適正化に関する保護者説明会の実施 教育講演会&これからの学校づくり説明会(H28.2) これからの学校づくり説明会&子ども交流イベント(H28.3) 学校再編による新しい学校づくりについて意見募集(H28.3)
2015年(平成27年)11月~ 2017年(平成29年)3月	・ 文部科学省調査研究事業を活用した魅力ある学校づくりについての調査研究
2016年(平成28年)7月~ 2018年(平成30年)6月	・ 新しい学校づくり創造ワーキンググループ会議(教職員による検討会議)の開催
2016年(平成28年)10月~ 2017年(平成29年)1月	・ オール御所で考える"新しい学校づくり"座談会(中学校区毎の住民説明会)の開催
2018年(平成30年)4月~ 2019年(平成31年)2月	御所市立小・中学校に係る新しい学校づくり基本構想(案)庁内検討会議の開催⇒御所市立小・中学校に係る新しい学校づくり基本構想(案)
2020年(令和2年)3月	・ 御所市学校施設長寿命化計画の策定
2022年(令和4年)3月	・ 御所市教育大綱(期間:R4~R8)の策定
2023年(令和5年)3月~ 2023年(令和5年)12月	・ 御所市学校規模適正化検討会議の開催・ Next Stageへつなぐ学校教育の取組(GOSE PLAN)の策定
2024年(令和6年)7月~ 2025年(令和7年)3月	・ 学校適正規模・適正配置庁内検討委員会の開催⇒御所市立小・中学校に係る新しい学校づくり基本方針の策定・ 御所市学校教育ビジョンの策定

● めざす学校コンセプト

つなぐ学び ひらく未来

~行きたくなる学びが ここに~



● 3つの基本方針

令和 I 3年(203 I 年)4月開校

いつ

御所小学校 御所中学校 用地を一体的に

どこに

義務教育学校

どんな

● 開校時期と事業スケジュール

- 開校時期は、2031年度(令和13年度)を目標とします。
- 今後予定している埋蔵文化財調査や近年の建設業界の人員不足や資材調達困難等の 建設市場の状況によっては事業期間が延長する可能性があります。

	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	2027年度 (R9年度)	2028年度 (R10年度)	2029年度 (R11年度)	2030年度 (R12年度)	2031年度 (R13年度)	2032年度 (R14年度)	2033年度 (R15年度)
■ 各種説明会	住民説明会			住民説明会		住民説明会	2031: (令和13 4月開	3年度)	
■ 基本計画	基本計画								
■ 各種調査	THE RESIDENCE OF SECTION AND ADDRESS OF SECTION A	查、文化財 也質調查	調査						
■ 施設設計 (基本設計·実施設計)		基本設計	実施設計 開発許可 等申請	1					
■ 建設·解体				新	f校舎・体 建設工事	The second secon	設建設	ら解体・給・プール建 ・プール建 動場整備	
■ 移転 (移転、用具·什器搬入)					移転準係	前			

● 学校の整備候補地

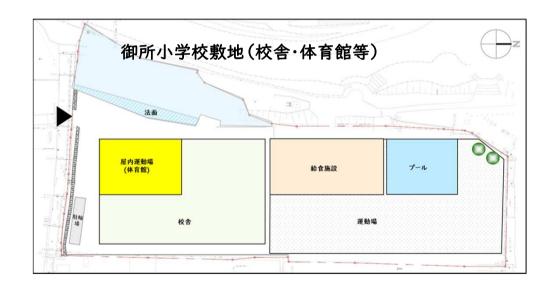
★新しい学校は、既存の御所小学校・御所中学校用地を活用します。

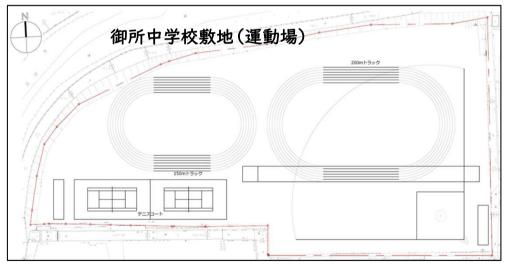
- できる限り早い時期に子どもの良好な教育環境の構築を実現
- ■「教育環境」、「まちづくり」「災害リスク」 「事業性」等の観点より、既存の御所小学校・ 御所中学校の両敷地を一体的に整備
- 学校施設(校舎、体育館等)は、御所小学校 敷地に建設。
- 御所中学校敷地は、広い運動場等を整備する 予定。



● 配置モデル<案>

- ※下記の配置モデル案は、各施設が敷地内に収まるかどうかを検証したものであり、各施設 の配置が確定したものではありません。
- ※実際の校舎等の配置は、基本計画・基本設計等で検討を行います。





● 学校の運営形態の類型

<義務教育学校と市内小学校・中学校の違い>

		市内小学校・中学校の形態				
	義務教育学校	葛小中学校(葛小·葛中)	御所小·掖上小·秋津小·名柄小· 大正小·葛城小·御所中·葛上中·大正中			
制度	2016年度(平成28年度)学校教育法の改正で設 置可能となった新しい校種	御所市立学校の管理運営に関する 規則にて施設一体型の小中学校 (中学校併設型小学校・小学校併設型中 学校)としている	小学校と中学校がそれぞれ別の校種			
修行年限	原則として9年間 (ただし、小学校・中学校の学習指導要領を準用する ため、前期6年後期3年の課程区分は確保)					
組織運営	校長1人、副校長1人、教頭2人、1つの教職員組織	小学校、中学校それぞれに校長・教頭・ 教職員組織				
授業	学校全体を1つの組織として運営するため、小学校と中 特に5・6年生において、中学校の教員が授業を担当す	小学校と中学校の教員がそれぞれの学校 で授業を担当する				
教育課程	9年間を見通した一体的・系統的なカリキュラムの編成学年間の接続を柔軟に設定(例:4-3-2制や4-5制等※葛小中学校は4-3-2制	小学校課程と中学校課程で分かれて設定 されている				
施設形態	施設一体型	校種別に分離				

● 令和13年開校時の学校規模

令和7年6月1日現在

	人数	Iクラス人数	I 学年クラス数
小学部	497人	25~30人	3~4クラス
中学部	351人	30~35人	4クラス

● 新しい学校の施設整備方針

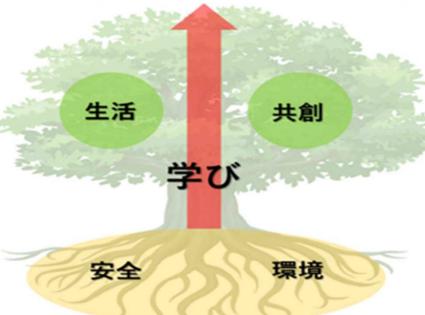
- 1年生から9年生までが共に利用する施設一体型の校舎を整備します。
- 配置等の詳細については、今後実施を予定している基本計画・設計段階において、下記の ①~⑧を重点項目として検討します。
- 教職員、市民アンケートやワークショップより、市民の皆様や有識者等の意見を反映します。

	安全・安心で快適な施設		2	魅力ある学校施設
3	③ 学力向上・多様な学びの 教育環境づくり		4	地域とともにある学校づくり
⑤	通学支援・子育て支援の充実		6	歴史伝統の継承
7	働きやすい職場環境づくり		8	敷地周辺環境との調和

● 新しい時代の学び舎で子どもたちの可能性を引き出す

すべての子どもたちの可能性を引き出す 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学力向上と 質の高い授業の実現



中一ギャップを防ぐ 学びの継続性

協働的・ 探求的な学びの推進

新しい時代の学び舎として目指していく姿

ふるさととつながる 学びの充実 「未来思考」をもった上で「すべての子供たちの可能性を引き出す。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて、これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿を示す。

新しい学校の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮するものとして、その中心となる「幹」に『学び』を据え、その学びを豊かにしていく「枝」として「生活」「共創」の空間を実現する。

一人一人に寄り添う 継続的支援

多様な仲間と育ち合う 社会性の育成

【出典】文部科学省 | 「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告(2022年3月)

● 新しい時代の学びを実現する学校施設

多様な学習活動が 展開できる空間



学習活動に柔軟に 対応できる多目的な空間



新しい学習スタイルを支援する 学びの空間





筑波大学付属小学校



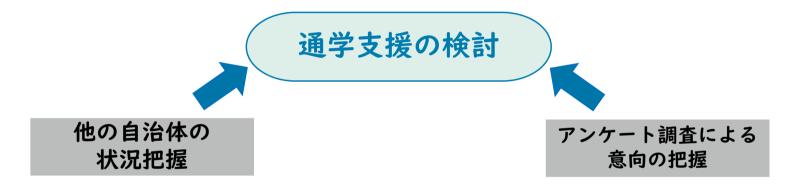
能勢町立ささゆり学園



王寺北義務教育学校

● 通学支援について

- 徒歩通学圏外の児童生徒については、スクールバス運行等の通学支援を行い、安全な 通学環境を確立するための検討を進めます。
- スクールバスによる歩行時間の減少・体力の低下等に対しても乗車・降車場所の工夫を 行うなどの対策を検討します。



● 学校跡地の活用について

■ 学校跡地の活用については、全国の先進事例を参考にするとともに、様々な役割(スポーツの振興の場、地域活動の場、避難場所等の地域防災拠点等)を考慮します。

● 推進体制<イメージ>

■ 全庁的な推進体制を構築するとともに、市民、教職員、有識者からなる御所市学校規模 適正化推進会議を設置し、検討を進めてまいります。

御所市総合教育会議



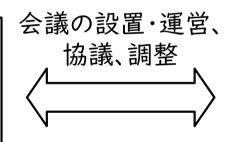
御所市学校規模適正化推進会議 (学校整備に関する各種検討等)

PTA

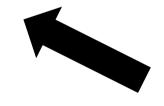
地域住民の代表

教職員

有識者 (学識経験者等)



御所市 新しい学校整備 担当部署他



市民アンケートやワークショップの意見



